

編集後記

今年度は前会長の渡辺澄夫先生追悼号を二回発行しましたが、先生の足跡のすばらしいことを改めて痛感すると共に、その先生に直接間接ご指導を戴いた方々の念いに啓発されたことと存じます。今回は再び普通号に戻り、今年度最後の号をお届けします。

この度は急に編集を代行することになりました。予定の編集者が、諸般の事情で辞退されたためです。三年前から佐藤満洋さんと共に事務局の編集担当になっているための代行ですが、原稿は平素からいろいろの方にお願ひして、何点かは常に用意して置くべきであると、強く反省しています。論説のみでなく研究ノート、史料紹介、新刊紹介など、各種の原稿をいつでもよいので、お寄せ戴くよう改めてお願いします。

幸に巻頭の長野さんの論説は、担当者のお願ひによるもので、着眼の豊かさと確かな研究に敬意を表するものです。矢野さんは数少ない県下の地理研究者の一人で、いつもながら着実な論説です。渡辺さんの史料紹介は、宇佐の近世史を新しい視点で説明されようとしている作業の一環と聞いています。三人の作品で纏めました。ありがとうございます。

(後藤)